

あいさつを大切に

私が学校の先生になる前の話です。学校の先生になる前に、教育実習というものがあります。この学校にも昨年来ましたね。そう、先生になるための勉強です。私は3週間、5年生のクラスに入って先生になるための勉強をしたのです。

その実習も終わりの頃になって、私は校長先生に呼ばれました。とっても面白く、楽しく、でも頭がよくて、とても尊敬できる人でした。その校長先生が私にこう言ったのです。「盛永さんは、がんばっているがあと一つのことをがんばりなさい。あいさつが上手じゃない。もっと大きな声で、はっきりとあいさつをしなさい。」先生になる前に、そんなことを言われた思い出があります。それから私は、元気なあいさつを心掛けるようになったのです。

今考えると、あいさつで大切なこと、それはお辞儀をする気持ちだと思うのです。その心をもってすれば、いいあいさつができますね。そして、もっと考えると、おじぎの「お」は大きな声で。小さな声でもじょもじょと言っても伝わらないですね。できれば相手に聞こえるような大きな声であいさつをしてみましょう。でも、怒鳴るのはだめですね。次におじぎの「じ」は自分から。相手がしてくるのを待つよりも、自分からあいさつできるといいですね。そして、おじぎの「ぎ」は行儀よく。そう、行儀よくあいさつができる人になりましょう。そのためには、おじぎも大切な行儀と言えます。

さて、皆さんの中には、とってもじょうずなあいさつをできる人がいます。素晴らしいことですね。今朝も、昇降口に立っていたら、「おはようございます。」と、元気のいいあいさつをしてくれる人がいました。何か、朝から元気をもらったような気がして嬉しかったです。あいさつは人の心を温かくしてくれる不思議な力があるのですね。

あいさつは人の心と心をつなぐ架け橋です。みなさんもぜひあいさつがじょうずにできる人になってください。それは、「よいこのめあて」の一つ目「いつも明るく 元気な子」につながりそうですね。あいさつの輪を東京女学館小学校に広めていきましょう。